

令和元（2019）年度

第二回 吹田市立博物館協議会

議 事 録

日 時 令和元（2019）年10月4日（金） 午前10時 ～ 正午

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 一瀬・村田・橋爪・伊藤・佐久間・矢田・岩崎・齋藤・喜田・八代委員

【1 開 会】 藤井副館長（出席状況の確認）

*欠席 瀬尾・内山・奥野委員

*出席委員数は全委員13名の過半数を超えており、本会は成立しています。

【2 挨拶】 中牧館長 挨拶

【3 委員・職員の異動】 報告（資料P1, 2 委員名簿・職員配置図参照）

*新たな委員として、PTA協議会より奥野委員。

【4 傍聴報告】 傍聴者なし。

【5 案件（1）事業報告（令和元年度前期～）について】

（議 長）案件（1）事業報告（令和元年度前期～）について、事務局より説明をお願いします。

*事務局より説明。

（議 長）（1）事業報告について、ご質問ご意見はありませんか。

（委 員）資料のP. 9にある立命館大学の協力による市民病院への中継による展示解説について、もう少し説明をしていただけますか。

（事務局）企画展のイベントではありませんが、立命館大学のご協力のもと、ロボットを使って展示室での展示解説を市民病院に送り入院患者の方にご覧頂いたものです。実験的な試みでありましたが、今後とも西村公朝に係る周知出来る可能性を感じた取組でした。

（委 員）ありがとうございました。十分わかりました。

（委 員）夏休みの自然系の展示に関わって、豊中市では夏休み中の課題に対する審査会・ミニ展示があり、阪大博物館でも優秀展示等に関わっているが、吹田ではそれに類する取組はありますか。また、全国にリンクするものは。

（事務局）市の教育委員会主催で市内小中学校の夏休み中の課題として取り組んだ作品を市で一堂に集め、「科学作品展」を実施しています。その表彰もごさいますが、大阪府や全国へとつながるものではごさいません。

(委員) P. 16の「西国街道連携事業 吹田郷土史研究会との共催」に関わって、先日も歴史ウォークが開催された。従来より事前の連絡等を重ねた上での実施としていましたが、今回当日の参加者より不満の声・意見があった。これについては、郷土史研究会内部でも今後続けていくなれば、工夫したやり方を博物館とともに考え、より良いものとしていかなければ、と思っています。この場をお借りして、報告させていただきます。

(議長) 連携・運営のあり方については、その実態も含めてしっかりと検討していかなければいけませんね。博物館からは何かありますか。

(副館長) 博物館としましても、十分な打合せがあったわけではなく、反省すべき点がございます。この連携事業につきましては、元々「吹田再見ウォーク」を西国街道の連携として、ここ数年実施してきたわけで、「街道」に関連した内容で実施してきた点に少し無理があったのではないかと考えております。今一度基本に立ち返り元の「吹田地域の歴史再発見」となるよう、連携に努めてまいります。

(議長) 博物館主導型のプログラムを作成し、そこに連繫として入ってくるという形ですか。

(副館長) 主導という型よりも、対等の立場で、テーマを「街道」に絞らず進めていければ、と考えています。

(議長) その進め方で(郷土史研究会さん、)よろしいですか。

(委員) (うなづく)

(副議長) ひとつお尋ねしたいのですが、今回の参加者は少なかったのですか。

(委員) いえ。今回の参加者は普段と同じ位にあったと思っています。今回の反省としましては、担当の説明するガイドが参加者の立場を考えた動きをしなかった。そこに参加者から不満や不平が出たものと思います。

(副館長) 具体的にいきますと、案内ガイドが不親切であったということです。60人の参加者ともなりますと、長い列が出来るもので、後ろの人が着くまでに解説が終わってしまった、とか。その辺りの改善を参加者から求められたり、その場でもさまざまな声を聞いたのですが、「改善を」との要望に応じることが出来ず、トラブルとなったものです。

(議長) 具体的な説明で大変よくわかりました。ところで、P. 11のアンケートに「全盲児・弱視児」といった言葉がありますが、その後の話やコンタクト、見学の具体化の話は。

(副館長) アンケートのみです。私の想像ですが、事前に大阪市の施設に声をかけました。学校単位での見学ではありませんが、個人的に、あるいは数年来の取組みの話を聞いて、と広まっていったものかも知れません。

(議長) 具体化すると、グループでの見学とかになりますよね。そんな受け皿の経験は。

(副館長) 過去にも対応してきたことがございます。今回も学校へご案内したという経緯があります。実際に触れるということが、たいへん喜ばれるものとなりました。足を運ぶ大変さもありましょうが。

(議長) ありがとうございます。では、次の議題へと進めましょう。

【6 案件(2) 事業計画(令和元年度後期～令和2年度前期事業)について】

(議長) 事務局より説明をお願いします。

*事務局より説明。

(議長) 以上の計画案になりますが、いかがでしょうか。まずは、私からひとつ。P. 20にあるワークショップ(古文書裏打ち体験)では、どんな古文書を使用されるのか。2点目は、P. 22春季特

別展の「神崎川」については、今年の3月に淀川の変遷や川筋の変化に関する、ユニークな研究をされているのがあります。ひとつの小テーマとして取り上げるのもありかと思えます。

(事務局) 古文書裏打ち体験は、あくまで体験なので指導するのは古文書補修の業者さん。古文書については和本(虫食いのある)の補修作業の補助を想定しています。

(議長) 裏打ちの補助ですか。

(事務局) 今回は全面的に、裏打ち紙をあてる作業を考えています。

(事務局) 2つめの「神崎川」に係る質問についてですが、川の成り立ちとかから考えることはなかなか難しいものです。川の形成とかについての調査は不十分なので、ぜひ参考にさせていただきます。

(委員) 「神崎川」ですが、自然災害についても触れられるとお聞きしたが、近世近代の災害をクローズアップすることは、市民の関心も高まるので良いことだと思います。

(事務局) 是非、「災害」についても取り入れていきたいと思えます。

(委員) この春季特別展の「神崎川」は、博物館の総力を挙げて取組みを進めると感じたが、通常の展示は見てみると、誰の展示なのか分かるもの。今回の展示は、様々な分野からの展示となり、総力を挙げての、こんな展示は少ないのではないか。

(事務局) 当館でも2009年の「吹田のアーカイブ展」や「はきもの展」など、過去には複数回、全学芸員で取り組んできたことがあります。

(委員) 色々な分野の方がいる、というメリットを前面に押し出して取組みを進めてほしいものです。

(委員) 学芸員総掛かりの展示に対するアドバイスとして一言。フォーカスがとりにくくなるという弱点もある。各コーナー、全体を見渡して、中心となって積極的に準備を進める人材がいてほしい。「神崎川」については、将来の常設展示を見据えて、常設の1コーナーとなるよう、そんな視点もって取り組んでほしい。また、特別展は新資料の獲得のチャンスでもある。

(委員) (チラシを示し) 大塩平八郎のこの画像って、珍しくないですか。これ自体がおもしろい。今の時代へのツッコミでもある。博物館便りには載ってるのですか。チラシを見る限りではアピール不足だと思うが。

(事務局) ありがとうございます。今回の秋季特別展「大塩平八郎」は、大塩事件研究会会長の藪田先生にご協力頂いております。ご指摘の画像は、前任の酒井肇氏が亡くなられ、資料整理の中で存在が確認された物です。成正寺へ寄贈されたものです。便りやチラシでPR不足といわれれば、確かにそうなのだが、作品としては明治以降に描かれたもので、裏には大正の年号があり、少なくとも大正よりも前に描かれた物と思われまます。

(委員) 今、説明してくれたことは、それなりに(たよりやチラシに)書いておかないと。

(事務局) はい、図録には掲載の予定です。また、11月にはNHKのBSプレミアムで大塩を取り上げる予定との情報がありました。その関係で取材の予定も入っております。それが入館者増につながれば、と期待もしております。

(委員) チラシの裏面を見ると、イベントが多いなあと感じた。少し強弱をつけるとか。

(議長) 盛りだくさんでいいじゃないですか。それと、西村公朝展ですが、「作仏」・「仏画」と、シリーズものになっているのですか。今のままだと単発もの。関連性を臭わす言葉を入れてはどうですか。

(事務局) ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(議長) 続きが楽しみになるようなシリーズ設定にしてください。

【7 案件（3）課題討論（平成30年度事業点検・評価について）】

（議長）では、案件（3）の課題討論へと進めたいと思います。では、平成30年度の実業点検評価について事務局より説明を求めます。

＊事務局より説明。

（議長）一覧表やまとめ方も含めていかがでしょうか。何かございませんでしょうか。これ（平成30年度事業評価）は、報告書につけるのですか。

（副館長）それも含めてご検討ください。

（議長）とてもわかりやすいものですね。

（副館長）鑑文も含めると4種類の文章がございます。まとめとしまして、今回ご意見を頂けたら、と思います。

（委員）外部評価点の幅についてですが。

（副館長）各個人の評価点ではありません。外部評価の点数とは委員の素点を平均したものです。平均点をさらに①～⑨の項目でわったものが総合点です。鑑文の段落下の部分を書き換える必要があるかもしれません。

（議長）私は、資料として2部でいように思います。

（委員）書類はコンパクトに！という方向性がいと思います。まとめの方向性については理解します。点数の一人歩きは避けるべきと思います。2.08点を強調する必要はないし、何が評価されて、何について批判があったのか、を右端の文章として表記することこそが大事だと思います。

（議長）いかがですか。前年はどうしてましたか。

（委員）この数年、過去からのトレンドがわかるように、と改善をしてきました。

（議長）分析の要約文がないといけないのではないのでしょうか。比較できるように細かいところまで出して、市民の皆さんにも見てもらって。この横長の分を工夫して添付すればいいのではないのでしょうか。

（委員）「前年度の比較」で、例えば、0.021という1%以下の数値には意味があるのだろうか。その分、文章表記を増やした方がいいと思います。

（議長）客観化・集約したものが一覧表となっている方がいい。以前は、扉に全体の総論的な要約を入れていた。鑑文の続きに入れてみてはどうですか。この表の中で、現状の見方とか誤った所見があれば、今指摘して頂ければ、と思いますが。

（委員）議長の提案に賛成です。ひと目見て分かるのが市民にとってありがたい。それが記録に残るのが大事。中期の終わりに何が上がって、何が下がったのか、という流れを示したらわかりやすいのではないのでしょうか。

（議長）他の委員の方は、どうですか。

（委員）この一枚物がわかりやすいと思います。数値の上下が気になる人は、細かいところを見ればいいわけで。そのとっかかりとしては、簡単なもの・わかりやすいものがいと思います。

（委員）先ほどの意見と同じで、小さな数字にこだわる表記には反対です。項目ごとの平均点の幅には意味を見出し難い。

（議長）ありがとうございます。では、基本的にはこのスタイルで右端の要約を鑑文に載せましょう。他に、際だった表現や疑義などあれば、いま出して頂きたいのですが。

(副館長) 私として、これを報告の一部に、という意図ではありませんで、これは本日の説明のための資料です。

(議 長) ざくっと、昨年の評価の特徴として、丁寧に横並びで一覧にしたものであり、これを特徴として鑑文に付けて頂けたら、と考えておるのですが。

(委 員) 議長の提案を受けて言いますと、一覧表の右端の文章が気になります。この資料を作られたときの「何点台は～」は置き換えてほしい。

(議 長) 参考としては、これが平成30年度の評価の特徴だ、とまとめてはいかがですか。

(委 員) ならば、外部評価と自己評価との乖離はない、という結果を明記をすればいいのではないのでしょうか。博物館として、自信を持って進めてほしい。

(議 長) 鑑文について、「13名の委員によって、博物館の事業としては概ね認められるとの総合評価が与えられた」といった結びにしてはどうですか。

(副館長) 整理させて頂くと、鑑文に、右側の点数を除き平成30年度の外部評価の特徴としてまとめ、その際、自己評価と外部評価との乖離はなく、とまとめていく方向で宜しいでしょうか。

(議 長) 列举するイメージで。

(副館長) P. 16の扱いは。

(議 長) 従来通りで。

(副館長) 点数に係る説明の文言は。

(議 長) 右上にありますよね。では、3種類でまとめる方向でよろしいでしょうか。これで進めさせていただきます。まとめは議長である私に一任、という形で進めてきました。ご承認を頂ければ、と考えますが。

(委 員) 異議なし。「博物館協議会設置要綱に基づき報告する」と追記すべきものと考えます。

(議 長) それでは、私がチェックし、報告する形にしたい、と思います。

【8 案件(3) 課題討論(第3次中期計画について)】

(議 長) では、引き続き第3次中期計画について事務局より説明を求めます。

*事務局より説明。

(議 長) 何か細かい文言についてだとか、ございませんでしょうか。

(委 員) P. 5のデータベース化について、「準備を進める」は間違いではありませんか。

(事務局) 「進めているか」からの訂正途中です。申し訳ございません。

(議 長) いつも時間がなくなる協議事項なのですが、今日は時間的にも余裕があるので、色々ご意見を出してください。

(委 員) 外部評価の横に、「重点項目を主にして評価」とあるが、重点項目としては該当する項目がないのは、いちいち此处には書かないということなのか。

(議 長) 事務局、いかがですか。

(事務局) ……

(議 長) 留意する内容とかを頭出ししてもらおうと評価しやすいのかもしれませんが。

(事務局) 評価方法については、まだお示しできていません。

(議 長) 外部評価が白紙状態ですよね。この場で大事な方向性とかを各委員より提案をしてもらった方がよいかと思いますが。

(事務局) ①の「資料の収集・保管・活用」で全体に評価コメントしていただきたい。従来は①a-b-cで、それぞれで評価をもらっていた。それが是なのか非なのかについても意見を頂きたいと考えております。

(議長) 事務局としては、もう少し具体的に、外部評価としてどんな文章がほしいのか、説明を。

(事務局) 第1次で、「データベースはどうですか」に対して評価がなかった。細かすぎるのかなあ、書きにくいからなのか、「コメントなし」が多発しました。それで、大きな項目で評価をもらった方がいいのではないかと考えた次第です。

(議長) いかがでしょうか。博物館としてどう求めていくかですよね。

(委員) 評価をどう書くか。どういう資料を出し、どうディスカッションして、評価してもらうのか、その議論はもう少し煮詰めないといけないと思います。博物館として、この協議会にどうしてほしいのですか。

(議長) 前回からの流れで、作られた今回の(案)なのですが。

(委員) もちろん、この後のコミュニケーションをどう設計するか。

(議長) 協議会の抜本的な議論ではないのですよね。具体的なコミュニケーションが次回へとつながるように、具体的なコミュニケーションの方向性について、今日この場で、ということですね。

(事務局) 令和2年度からの事業については、令和3年度に評価を頂くことになります。次年度(令和2年度)に協議を深めて進めていければ、と思っております。この場だけで決めるのは拙速すぎると思われれます。

(議長) 確認してきたのは、方向性というかコミュニケーションの方向性は事務局から出しにくいのかと思い、私は求めたが。確認してきたのは、外部評価以外の欄・事故評価までの欄は、これでよろしいでしょうか。

(事務局) 項目として、これでいいのか、確認をしていただきたいと思えます。

(委員) 活動項目で5年後まで、というならもう一歩進めたい。例えば、データベース化について、5年後ということならば、何かは出来ていてほしいのだが。

(議長) 今日は、事故評価までのチェックで終えて、外部評価については委員の方々に提案・意見を考えておいてもらう、ということ。

(委員) SDGsについては、本文の中にリンクする関連がない。私は、P. 3の「2. 第3次中期計画」の後の5行の文章をもっと拡大してほしいと思う。社会教育施設として、持続可能な事業をやるといったSDGsへのリンクがとれてくる。第2次の評価を踏まえて、こういったことをした、との文言があれば、どういう流れでこれが出てきたのかがわかる。ご検討ください。

(委員) 重点項目についてですが、これを重点項目にします、といった議論は終わっているのでしょうか。本当にこれでいいのでしょうか。5年間にわたって、これだけ。市民との関係が少ないかと思えます。市民参画、市民との連携を使命としておきながら。

(事務局) 前回は、「ボランティアの会・実行委員会」が重点に入っていました。これについては、博物館にとっては基本中の基本の活動ということで。今回の「重点」は「特に」という意味なので、入れませんでした。

(委員) 博物館からのメッセージとして、ひとつ「重点」にしといた方がいいのではないかと、いう意味ではないのでしょうか。

(事務局) 例えば、①「市民参画と共働」のaからeのうちでは、どれですか。

(委員) dの市民参画です。

(委員) 博物館としては、夏季展示実行委員会ですよね。そこにミスコミュニケーションがある。

(議長) 評価指標そのものが狭いのでしょうか。

(事務局) 博物館の最大のミッションは、市民参画であると考えます。これは当博物館としては、当たり前のこと・基本中の基本となってきたので、今すぐにやらないといけない、即時性の強いものとして、あえて「重点」とは捉えていないのですが。

(委員) ミッションがP. 3でも入っていると思います。それほどに市民参画が当たり前だと市民は感じていません。もう少し安心させてください。

(委員) 行政に向けての「重点投資項目」ということですよね。

(事務局) 「重点」と「基本」がわかりづらいのでしょうか。

(議長) 外部評価・コミュニケーションの方向性以外を(事務局として)固めたい日程は。

(事務局) 次回、令和2年度当初には決めていきたい。

(議長) (訂正の) 赤を入れてもらう日程のメ切は。

(事務局) 年内ぐらいには。

(議長) では、年内に赤を入れて事務局へ、そして集約したものを次回に。それを添削しましょう。ありがとうございました。これで第二回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。